

しまね学校図書館活用コンクール 取組の概要

学校名 出雲市立須佐小学校

- 1 応募部門 ※ 応募する部門に○を付けてください。
(○) 読書活動部門
() 学校図書館を活用した授業部門
- 2 実践のねらい

- ・朝のプレゼント・お話レストラン・ブックトーク・ストーリーテリングなどの多様な読書活動を通し読書に親しむことで、読書の楽しさを知り、豊かな心を育てる。
- ・読書週間・朝読書・おすすめの本 150 などの取組により読書の習慣化と読書傾向の幅を広げる。

- 3 実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

1. 学力テストの実態から

本校の平成 22 年度島根県学力テストの結果から「①テレビ・ゲームの時間が多い。②読書の時間が少ない。③思考力・読解力が身につけていない児童が多い。」などの実態があげられた。

そこで、「読書は楽しいと感じ、読書が好きになる子」「読書習慣が身につく子」の育成をめざし以下の取組を実施した。

2. 読書に親しませる取組

①朝のプレゼント

毎週水曜日の朝 8 : 15 分から 20 分間、地域のボランティア「さくらんぼの会」による読み聞かせをしてもらっている。本の選定は佐田図書館の司書が行い、中・高学年には、1 冊の厚い本を数カ月かけて読み通すことが特徴である。

②お話レストラン

毎月第 1 週金曜日の朝 8 : 15 分から 20 分間、担任以外の教員が読み聞かせをする。本の選定は教員に任されているが、20 分完結の絵本を選定の条件にしている。

③ストーリーテリング・ブックトーク

毎年 2 月に佐田図書館と連携して、宇田祥子さんを招いたストーリーテリングの会を実施している。中高学年向けの長いストーリーを語ってもらうことで、中高学年も物語の世界に浸ることができる。

年度当初に年間計画を作成して、出雲図書館に依頼することで、1 年に一度はどの学級もブックトーク・ストーリーテリングが体験できるようにしている。

④図書委員会の取組

「読書パズル」「しおりコンクール」「読書の花を咲かせよう」「見てみて聞いて！小学生新聞」など、全校児童が本を好きになってくれるような取組を図書委員が中心となって行っている。

3. 読書の習慣化を図る取組

①読書週間

学校や家庭での読書習慣を身に付けさせるために、年間 3 回の読書週間を設けて、全校児童や家庭に呼び掛けて、読書に取り組む活動である。特に家庭での読書を進めると同時に家庭でのメディア視聴（ノーゲームノーテレビデー）とも連携させながら「テレビを消して 静かに読書！」を合言葉にして実施している。週間中は学校保健委員会と合同で「ノーメディアチャレンジ」カードを作成し、メディア視聴や読書の目標を持たせたり、読書時間やテレビ・ゲーム時間を記入したりすることで、家庭でのよりよい過ごし方の意識化を図ることをねらいとしている。

梅雨の読書週間（6月中旬） 紅葉の読書週間（10月下旬） 雪の読書週間（1月中旬）

②家族読書

読書週間に合わせて「家族読書」に取り組むようにした。やり方は6コース紹介し、どのコースで実施するかは、各家庭に任せることにしている。週間の期間は土日をはさんだ7日間にする、15分間という短時間の設定にすること等で家庭への負担を軽くし、実施率が向上するように工夫した。

③読書貯金

朝読書や家庭で児童が読んだ本を「読書の貯金通帳」に記録していく。低学年は書名と冊数を記録し、中高学年は書名と読んだページ数を記録していく。それぞれ100冊、1000ページごとに認定証を出して児童の励みになるようにしている。ページ数10000ページ、20000ページ、30000ページ、冊数500冊を達成すると、校長自作の認定証で全校表彰をするようにした。

④須佐小おすすめの本 150

今年度国語の教科書が新しくなったため「国語の教科書に出てくる本・教科書関連図書」が大きく変わった。そのため、今年度の図書費をほとんど「教科書に出てくる本」に費やして購入した。

また、学級担任から「読書量は増えたが、読書傾向に偏りがあり、学年相応の本を読まない児童がかなりいる」という課題が寄せられた。

そこで、良書で読書の幅を広げさせようと考え、今年度購入した「教科書に出てくる本」に紹介されている本から各学年25冊を担任に選定してもらい「須佐小おすすめの本 150」を冊子にして児童一人一人に渡した。1年～6年までの選定図書がのせられている冊子で、自分の学年だけでなくどの学年の本から読み進めてもよいことにしている。読み終わると読書ヘルパーにシールをはってもらったようにした。

【書架の工夫】「須佐小おすすめの本」は図書室の窓側に別置き、背表紙にピンクのシールをはって「おすすめの本」がよくわかりようにした。

【読む時間の工夫】クラスごとに時間を割り振り、生活時間に位置図けることで全校児童が取り組めるようにした。（朝読書・パワーアップの時間をクラスごとに設定した）

4 実践の成果

1. 読書に親しませる取組

・朝のプレゼントやお話レストラン・ストーリーテリングなどの取組からお話を聞く楽しさを味わうことができる児童が増えた。更に、ブックトークにより読書の幅を広げることができた。

2. 読書習慣を身につけさせる取組

・読書週間の取組により、普段は読書をしない児童も期間中は積極的に読書をする姿が見られた。

「ノーメディアチャレンジ」から読書のめあて目標達成率は100パーセント達成が42%、70%以上達成が40%と約8割の児童が目標をほぼ達成していた。「ノーメディアチャレンジ」の目標達成率は100%が57%、70%以上が9割であり、読書とノーメディアとタイアップして実施したことは効果があった。

・家族読書は、「梅雨の読書週間」での実施率が85%をこえた。家族読書は3年前から実施しているため各家庭にかなり浸透してきたようだ。家庭によってその都度コースを変えたりして工夫している様子も見られた。

・読書貯金

読書の貯金通帳を記録することで児童の読書意欲が向上した。全校表彰は1年間で、30000ページ達成者1名20000ページ達成者3名10000ページ達成者15名500冊達成者3名であった。その他全校児童の読書貯金もかなり増えてきている。担任は児童の読書傾向や読書量を把握するのに役立った。

・おすすめの本 150

学級ごとに時間を確保したことで、「おすすめの本 150」に全校児童が取り組めるようになった。また、一つの学年だけでなく全学年の本を読むことができるようにしたため、低学年でも上学年の本を読んで達成感を味わったり、高学年の読書が苦手な児童が、下学年の読みやすい本を読むことで満足したりする姿が見られた。